

倉橋教授の高見を讀みて

大阪醫科大學衛生學教室

竹

村

一

「幼兒の教育」四月號誌上に於て倉橋先生の園醫に關する御高見を拜讀し大に感激した。いさゝか愚見を述べて先生に御答したいと思ふ。幸に御訂正を賜ひ御教導を仰ぎ得ば幸甚と思ふ。

ここに於て將來此缺陷を補ふべき方案として私の希望する所は此際特に幼稚園に適當なる園醫の選定と保姆の園醫をして充分教育上の相談相手とする事とである。

幼兒の教育上衛生的方面を閉却されてあつたといふ事は先生の御論旨の通り誠に「幼兒教育の本質上重大なる缺陷」であつた。

從來の吾國の保育なるものには日本舊來の傳統的觀念上の缺陷からであつたか幼兒の積極消極兩方面の衛生なるものが顧みられなかつた傾があつた。

第一は適當なる園醫の選定である。

從來の幼稚園當事者(學務當局、園長、保姆)は園醫なるものは年一回の定期身體検査を施行し、且園内に於ける幼兒の應急手當を行ふ事が主なる責務と考へられてゐた様に思はれる。其故に園醫は幼稚園の近所ですぐ立つて行ける開業醫の方でないといかぬといふ事は私の屢々耳にする所であ

る。

勿論身體検査をするのも應急手當をするのも園醫のなすべき當然の事ではあらう。然し乍ら此身體検査なり又應急手當なるもの位は別に幼稚園衛生を擔當すべき光榮ある園醫（豫防醫學者）に非ずとも市井の臨床開業醫家の何人にも出來うる事である。殊に應急手當の如きは幼稚園衛生婦又は保姆にてもなし能ふ所のものにして直に附近の開業醫にかつぎ込む迄のそれまでの手當である。

元來幼稚園衛生なるものは學校衛生と相關連したる一つの豫防醫學的立場に置かれたる身體的教育である。殊に幼稚園教育は其全半面は身體的教育でなければならぬ事は倉橋先生の御説の通りである。

ここに於て私は園長又は主席保姆の園醫選定に際して少くともこういふ判然たる立脚點を以て望まれないと思ふ。勿論次の様な諸點に付ての願慮

も相當必要である。

一、兒童愛護の惜心（倉橋先生の大坂に於ける講演筆記参照）をもてる者

一、幼稚園教育に理解ある者（幼兒心理、幼兒教育についての一般を知れる者）

一、學校衛生學について特別の知識を有する者

第二の問題は選定せられたる園醫の活用である。

採光採暖換氣清潔溫濕度の影響、机腰掛等の設備上に對する改善は勿論園醫をして充分に研究提案せしめるべきは當然の事であるが、更に進んで保姆は自己の Program making 上に關しても其の身體的方面の相談相手として活用すべきであると思ふ。

Patty Smith Hill は彼の著 A conduct Curriculum for the Kindergarten and first grade に於いて

のもとに五項目を擧げて居るが其内一及三は幼児の身體的方面に關しての考慮である。

將して保姆諸君は園醫をこうした考へで遇さるゝであらうか。只單なる市井の一開業醫同様に解せらるゝであらうか。私は幼稚園を參觀する時幼児教育の身體的方面の餘りにも閑却されてゐるのに驚く時がある。幼稚園は神經質な子供の養成所でもなければ殊更に群集生活による健康障礙を招致すべき場所でもない。倉橋先生の所謂國民保健の大事業の着手せらるべき時期であり且場所である。

幼稚園醫令の發布は昭和聖代の一大慶事である。吾等幼稚園當事者は（園長も保姆も更に園醫も）今一度思ひなほして此大任に向つて進みたいものであると思ふ。

口　繪

觀て描く。

描くことによつて觀る。

作りつゝ話しつゝ。

話しつゝ作りつゝ。